

I はじめに

1. 手引き作成の趣旨

神経難病療養者の在宅療養においては、常に「たんの吸引」を必要とする、などの重度の障害を持つ方々への家族介護者の介護負担の軽減および在宅療養の安全性の確保が大きな課題となっています。これら課題への解決策の一つとして1999年、大分協和病院山本医師らにより気管切開患者のための「自動吸引装置の開発」がすすめられ、2004年には気管カニューレに埋め込んだ吸引ラインから、たんを持続的に少量ずつ持続的に定量で吸引する低定量持続吸引という現在のシステムの原案ができ、2010年、関連する医療機器の薬事承認がそろい、専用カニューレを装着し大型注射器あるいは専用吸引器を用いた新たな吸引システムが医療現場で実施可能となりました。しかし「自動吸引システム」や「持続吸引システム」という概念が医療保険上存在しせず、医療現場においては医療処置として実施するため、システムの概要、取り扱いについてウェブ上にある開発者の山本氏作成の自動吸引マニュアル（Dr山本の診察室 <http://www3.coara.or.jp/~makoty/>）等を読み、理解した上で医師の指示のもと開発者が推奨する使用方法を厳守し、使用する必要があります。

現在、前述した事情により、本システムが広く普及しているとは言い難く、また、安全な使用に関する情報の入手先が限られることがあり、医療現場において、安全な使用方法が確立しているわけではありません。

このため、「希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究」分科会2看護班では、開発者である山本真氏ならびに、現在先駆的にこの「新たんの吸引法」を実施している医療職らで構成されたワーキンググループ（巻末記載）にて、安全な使用方法の確立のため、現状についての成果と課題を検討いたしました。また、加えて、現在の使用者へのアンケート調査を実施し、生じた課題と対応策について整理、検討致しました。

本手引きは、これらの成果を盛り込み、「新たんの吸引法」の導入により、医療器材、医療機器を使用することに関して医師、看護師などが行う支援の手順と療養支援体制について提示したものです。ぜひ、みなさまに活用していただき、安全に使用していただけることを希望いたします。

2. 手引きの構成

本手引きは、Ⅱ. 新たんの吸引法について、Ⅲ. 新たんの吸引法の導入に伴う使用に関わる支援方法、の大きく二つの内容から構成されています。Ⅱ. 新たんの吸引法については、いわゆる「取扱説明書」に当たる部分で、Ⅲは実際の療養支援に関わる事柄について提示しています。

3. 手引きの用い方

新生児の吸引法の導入により、多くの気管切開患者の安全と看護・介護負担の軽減につながる事が期待され、誤った使用法をとらない限り、安全性は確保されますが、誤った使用法による危険性や現システムにおける限界があることも事実です。そこで、新生児の吸引法の導入を検討している医師は、専用カニューレおよび専用吸引器について、原理を充分理解し、どのようなものか熟知した上で、対象の患者に適応があるか検討してください。適応する場合は、患者、家族の方に十分にこのシステムについて説明していただき、同意を得て実施してください。なお、実施にあたっては、医師、看護師は、ウェブ上にある開発者の山本氏作成の自動吸引マニュアルを読み、新生児の吸引法について熟知したうえで、実際の支援についてこの手引きを活用してください。また、療養にあたる全スタッフへ充分な理解が得られるよう本手引きを参考に説明を行ってください。